

新発売のカビ毒吸着飼料 「TOXO(トクソ)ーXL」のご紹介

輸入穀物の高騰の中、自給飼料の関心がますます高くなってきている今日、さらなる品質向上が課題となってきています。

そこで問題となってきているのが、カビ毒(マイコトキシン)です。

日本国内で販売されている飼料は許容基準規制値以下のものが流通しており問題はありませんが、自給飼料はその限りではありません。

表1の通り、乳牛にとってかなり低い濃度で問題が出ると言われております。

表1：マイコトキシンによる中毒 (ppm)

マイコトキシン	おもな症状	許容基準規制値		乳牛の最大許容値
		規制対象	許容基準	
アフラトキシン	肝障害 出血性腸炎	配合飼料	0.02	0.02
		配合飼料(乳牛等)	0.01	
DON (デオキシニバレノール)	消化器障害	飼料(生後3カ月以上)	4.0	0.3
		飼料(それ以外)	1.0	
ZEN (ゼアラレノン)	繁殖障害	飼料	1.0	0.1

涼しい北海道でも多くの発生が確認されています。

また、DONとZENの両方とも検出される率が高い傾向があります。(表2)

表2：北海道におけるマイコトキシンの発生状況 (道総研)

生産年次	2006年	2007年	2008年
調査サンプル数	21	16	25
DON検出率 (%)	100	43.8	96.0
ZEN検出率 (%)	33.3	68.8	100
複合検出率 (%)	33.3	37.5	96.0

この様にマイコトキシンの発生状況から見ましてアフラトキシンだけを吸着する『ノバシルプラス』(弊社商品)では役不足という事になります。

そこでアフラトキシンのみならずDON、ZEN

にも有効な『TOXO(トクソ)ーXL』が必要なのです。

成分はモンモリロナイトだけではなく、乾燥酵母細胞壁も含んだ複合品です。

特徴としましては

- ①モンモリロナイトは不純物の少ない厳選した鉱物を使用していますので広範囲のマイコトキシンに有効で、少量でも効果があります。
- ②乾燥酵母細胞壁はβグルカンの免疫活性効果により体内防御能力を高めます。
- ③日本国内の大学でいくつかの商品テストを行いました。評価が1番良好です。(図1)

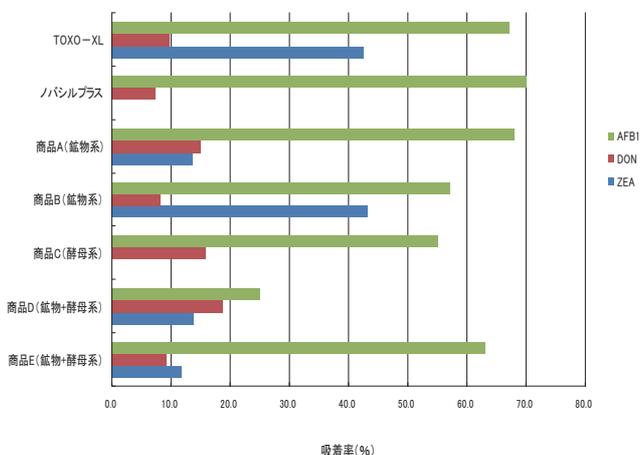


図1

カビ毒吸着飼料も日々開発が進み、より良い商品が市場に出てきております。

是非、日頃の生産性向上のために、ご利用をお待ち申し上げます。

(油化産業株式会社 志水裕敏)

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
 本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号
 TEL (011)891-5911
 FAX (011)891-5774